

NEWS RELEASE

2022年8月25日

日本豆乳協会

SOY2206

日本豆乳協会

2022年4-6月期における豆乳類の生産量が106,916kℓを達成

～ 無調整豆乳は前年比108%と増加、

豆乳類全体の生産量は、前年同期比99.5%とほぼ同量で推移 ～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：藤村 公苗 キッコーマンソイフーズ株式会社 代表取締役社長、事務局長：杉谷 智博、以下豆乳協会）では、2022年4-6月期における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は106,916kℓとなり、前年と比較すると99.5%とほぼ同量を維持しています。

豆乳協会では、四半期毎に国内豆乳生産量を検証しており、豆乳類を分類別に見ると、最も生産量が多い「豆乳（無調整）」の生産量は32,957kℓ（108%）と引き続き増加しています。「調製豆乳」は、51,088kℓ（97.2%）、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は、14,920kℓ（96.6%）、「果汁入り豆乳飲料」は、4,391kℓ（90.8%）と前年をやや下回りました。出荷量においても生産量と同様の傾向を示しています。なお、主に業務用を用途とする「その他」の 카테고리 においては3,561kℓ（87.3%）と、外食需要の減少による影響を受けました。

豆乳協会では、新型コロナウイルスの影響により、生活者の買物の仕方にも変化が現れ、長期保存が可能な豆乳の需要がさらに高まったことも、増加の一因とみています。特に、4-6月期においては、猛暑日が続くなど暑い日が多かったことから、コーヒーや紅茶などと混ぜて飲むソイラテや、シリアルにかけて食べるなどの需要がありました。「豆乳（無調整）」の愛飲者によるリピート購入が増え、料理では冷製の豆乳スープや麺類と合わせて豆乳麺として食するなど、暑い時期でも食べやすく大豆の栄養が摂取できる料理等の需要が拡大したことが増加の要因になったと考えます。

豆乳協会では、引き続き、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を4ℓに増加させ（2020年3.4ℓ / 総人口12,500万人）、年間総生産量を50万kℓにすることを目標に、

豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発・啓蒙活動を展開していきます。

(参考)

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和54年9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

(株)VA インターナショナル
田中/岩野

メール : vai@va-intl.co.jp
TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017